

# 仙台大豆作情報

令和4年度第3号

令和4年10月11日発行

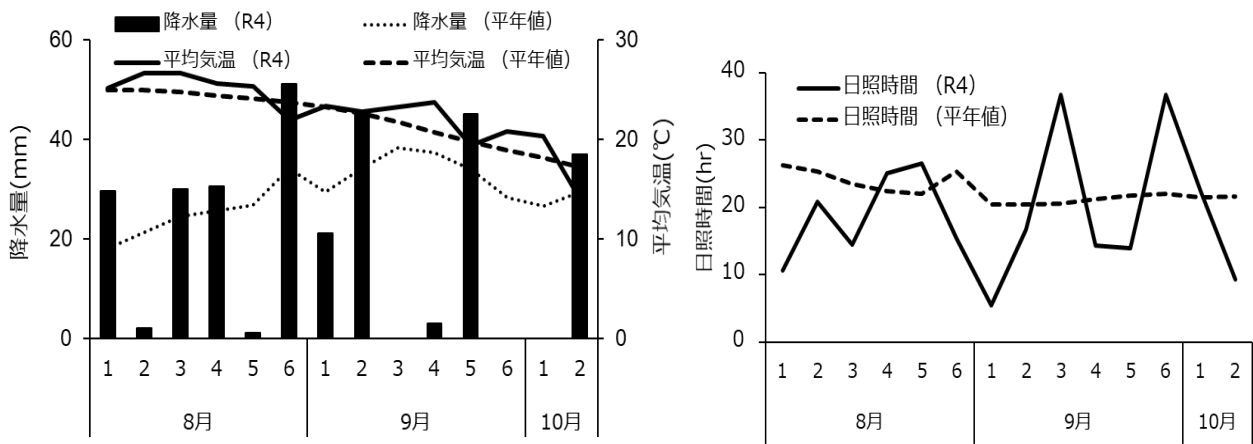
宮城県仙台農業改良普及センター

TEL 022-275-8410

## 収穫作業のポイント

汚粒の発生を防ぎ、整粒歩合を高めて上位等級に入る品質を確保しましょう！

### 1 気象経過 (8/上~10/上)



### 2 生育概況 (標播)

表 生育調査ほ調査結果 (9月1日調査)

品種 (地区)	調査年	播種日	開花期	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	成熟期
タンレイ (仙台市宮城野区岩切)	本年	6月20日	7月31日	57.6	13.7	2.0	
	前年	6月10日	7月28日	50.0	12.6	3.2	10月18日
ミヤギシロメ (仙台市若林区荒井)	本年	6月21日	8月6日	63.1	14.7	3.9	
	前年	6月2日	7月30日	71.3	15.4	4.7	10月31日
	平年	6月5日	8月3日	73.7	16.0	5.0	10月30日

- ・タンレイは、主茎長・主茎節数が前年を上回ったものの分枝数が少なく、ミヤギシロメは、播種が前年より大幅に遅れたことから、主茎長・主茎節数・分枝数のすべてで前年を下回りました。
- ・チョウ目害虫であるオオタバコガやミツモンキンウワバが発生し、葉の食害が確認されました。調査ほ以外でも広く発生が確認されましたが、現在は被害が落ち着いています。
- ・10月7日時点で、タンレイは黄葉期を過ぎ落葉期に入ってきました。ミヤギシロメは黄葉期にまだ達していません。

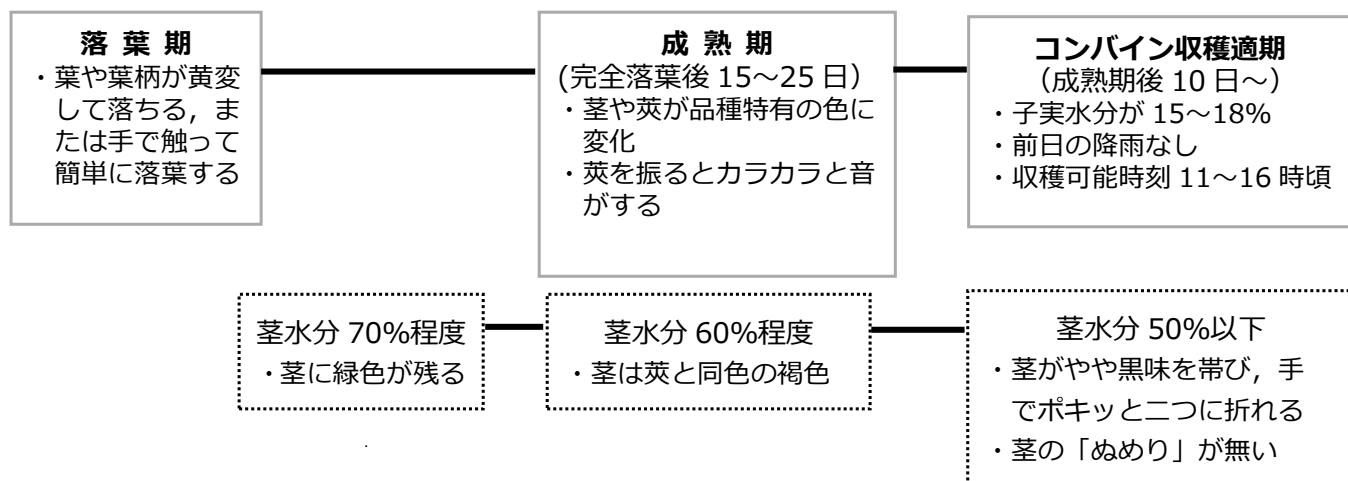


チョウ目害虫による食害

### 3 収穫作業のポイント ～適期収穫と汚粒対策～

コンバインによる収穫適期の判定は、子実と莢の水分がポイントです。莢・莢の色や莢内での子実の振動音、莢の切断音など総合的に判断する必要があります。大豆の成熟経過を図1に示しますので、ほ場ごとの生育ステージを把握して作業計画を立てましょう。

図1 大豆の成熟経過とコンバイン収穫適期



大豆のコンバイン収穫において問題となるのは「汚粒」です。以下の点を十分に理解して収穫作業を進めましょう。

- (1) 収穫前に雑草や青立ち株を除去し、汚粒の発生を防ぐ  
莢や実の色がある雑草（イヌホオズキなど）、大型で乾いていない雑草（アメリカセンダングサなど）、青立ち株は莢水分が高く汚粒の発生原因になります。今年は、タデ類が繁茂しているほ場が散見されます。**収穫前に可能な限り抜き取り**ましょう。
- (2) 適期収穫を行う  
コンバインによる収穫判断は、子実水分や莢水分を目安に行いましょう。子実水分が高い（20%以上）とつぶれ粒等の発生が多く、水分が低い（14%以下）と、割れ豆等を主体とした損傷粒が多く発生する傾向があります。また、莢水分が高いと汚粒発生の原因になります。
- (3) 刈り取り時刻は、午前 11 時～午後 4 時頃  
莢や子実水分が高まる時間帯を避け、午前 11 時から午後 4 時頃に収穫しましょう。前日に降雨があった場合は、莢の水分状況を確認してから作業をしましょう。
- (4) 作業速度を抑えて、土を掻き込まない  
汚粒発生が一番大きな原因として「土の掻き込み」があげられます。**約 10cm 以上の刈り高さを確保**するとともに、作業速度はゆっくりとし、コンバインの刈刃が土を掻き込まないように注意しましょう。特に「生育が旺盛で作物量が多い」、「倒伏している」などの場合はさらに作業速度を抑えて刈りましょう。

## 4 乾燥作業

県産大豆は大粒種の生産が多く、吸水性にバラツキが出やすくなります。乾燥調製作業では大豆の吸水性に大きな影響を及ぼす穀粒水分と粒揃いが、最も重要なポイントです。

### (1) こまめな水分測定

ほ場によっては、子実水分のバラツキが大きい場合があるので、**こまめに水分測定**を行いましょう。

### (2) 適正な乾燥温度

- ・循環式乾燥機等による加温乾燥の場合は、**熱風温度を 30℃以下**とし、裂皮粒やしわ粒の発生を抑えましょう。
- ・平均水分が 18%を超える場合は、さらに熱風温度を下げ乾燥しましょう。

### (3) 処理能力に見合った流量調整

仕上がりは、被害粒や異物がなく、子実水分は 13%程度で、よく成熟した粒揃いの良いものを目標に調製しましょう。

## 5 東北地方 1 か月予報 (令和 4 年 1 0 月 6 日 仙台管区气象台発表)

予報のポイント

○暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。

○気圧の谷の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

秋の農作業安全確認運動 ～令和 4 年 9 月 1 日から 11 月 30 日まで～

農作業安全確認運動テーマ「しめよう！シートベルト」

当管内では今年度コンバインによる死亡事故が報告されています。稲刈り中にコンバインでバックして、後方で作業していた補助者を轢いてしまった痛ましい事故です。

コンバインの大型化に伴い運転席からの死角が多くなりがちです。組作業をしている場合は補助者を近づけさせない、後進する場合はホーンを鳴らしてから行うなどの事前のルールを確認しましょう。

また、死亡事故の過半数はトラクターが原因です。トラクターを運転する際にはシートベルトを着用しましょう。